バス

大洋交通株式会社

「グリーン経営認証」のキーマンに聞く

（令和８年４月13日）
代表取締役社長　大座畑　光二 様

会社概要

所在地	茨城県東茨城郡城里町塩子 1088
代表取締役	大座畑　光二
設立	平成３年10月
資本金	3,000万円
保有車両	10台
従業員数	12名
グリーン経営認証登録	平成19年３月（本社営業所） ほか、常陸大宮営業所で登録

「グリーン経営」は「豊かな自然」を守り「安全運行」を継続する基礎

茨城県に２拠点を構え、旅行業、観光バス事業を営む同社は、運転技術の向上を図りながら高い顧客ニーズに応えています。営業所の地元自治体からはスクールバスの運行を請け負っており、地域に貢献する「なくてはならない存在」として、日々安全運行に努めています。「その基礎となっているのは『エコドライブ』」と話す大座畑社長は、豊かな自然を守る活動を経営に組み込みながら、強力なリーダーシップで安全・環境活動を推進しています。

「グリーン経営認証」は中小事業者に適した認証制度

茨城県２拠点でバス事業を展開

当社が「グリーン経営認証」を取得したのは平成19年です。平成17年に「京都議定書」が発効されるなど、「環境問題」「地球温暖化」といったワードを聞かない日がないほど、社会全体が環境保全に大きく踏み出した時期でした。茨城県の山あいに本社を構える当社にとって「自然」や「環境」は大変身近な存在であり、それらを守り、共存していくことはごく当たり前のことと認識していました。その認識を具現化するとともに、取引先などに対し「環境にやさしいバス事業者」として認めてもらうために環境認証の取得が必要と考え、さまざまな認証制度のなかから「グリーン経営認証」が中小事業者に最も適していると判断し、取得することにしました。以降、独自にポスターを作ったり、点呼場に「グリーン経営」に関する情報を掲示したりして、乗務員への周知に努めました。

独自作成した「グリーン経営認証」ポスター

掲示物で環境・安全活動を周知・徹底

「エコドライブ」で人にやさしい運転を実践

バス事業者として「人にやさしい運転」の習得は必須です。地元自治体（茨城県城里町、常陸大宮市および那珂市）からスクールバスの運行事業を請け負っており、子どもの利用が多いのが当社の特徴です。また、近年は高齢者の観光バス利用が増えていることからも、より一層「人にやさしい運転」を意識することが大切と考え、とくに「エコドライブ」を重視しています。

全乗務員に対し、3ヵ月に1回「乗務員教育」を実施しています。乗務員への法定安全教育の場を利用し、「環境」の要素を加え、エコドライブを再確認・再認識してもらいます。また、年度初めに実施する「スクールバス試運転」には、私を含めほぼすべての乗務員がスクールバスに乗車して実際の走行ルートを巡り、運行上の注意点など各自が気になった点を出し合い、意見交換を行います。各々の考えを共有することで、日常に潜む危険や不安を可能な限り取り除くことができ、安全運行・エコドライブにつながります。

安全教育の場でエコドライブも周知・徹底

「問い詰めない」指導

全車両にデジタルタコグラフ、ドライブレコーダーを装着しており、急加速や急停止など何らかの異常走行を検知した際には事務所にリアルタイムで通知されます。通知を受けた際には、帰庫後に乗務員からその状況についての報告を求めます。この時に管理者側が気を付けていることは「問い詰めない」ことです。急停止など通常はあってはならない運転操作は、乗務員に起因する場合のほか、危険回避などやむを得ないケースもあります。真の原因を突き止めなければならないときにその方法を誤ると、言われたほうは委縮したり感情的になったりして、正確な原因究明や指導にならず改善につなげられません。乗務員指導で必要なのは「対話」です。私がこう認識したきっかけは、茨城運輸支局から運輸安全マネジメントの評価を受けた際に、担当官から聞いた悲惨な事故事例でした。本来行うべき指導方法から逸脱し、一方的な押し付けや罰則ありきの指導となっていた様子などを聞き、指導に対する意識が変わりました。その後は点呼に可能な限り立ち合うようにし、乗務員と会話をするようにしています。決して高圧的にならずコミュニケーションをとりながら、マニュアル任せではない「本音」で対話することで、乗務員も「本音」で語ってくれるようになります。当社は設立以来、「有責事故ゼロ」を継続していますが、こうした指導姿勢のアップデートが実を結んでいるのではないかと自負しています。

カーボンニュートラル社会の実現への一歩

自社所有の山から切り出した間伐材を本社営業所の車庫に利用しています。山の手入れは、森林を健康に維持するほか防災面でも不可欠です。山・森林の本来の機能が保たれるほか、それによってもたらされる資源を適切に利用することで、カーボンニュートラル社会の実現にも近づきます。さらに、周囲の豊かな自然は豊富な水資源を提供してくれており、本社で使用する水のほぼ100％は井戸水で賄っています。水質面はまったく問題はなく、飲料水や生活用水のほか洗車にも活用し、洗車で使用した水は適切に処理して自然に戻しています。また、洗車機には特殊なフィルターを通して車体をガラスコーティングする装置を導入しており、「洗剤のいらない洗車」を実践しています。

間伐材を使用した車庫

本社では井戸水を有効利用

「グリーン経営」は難しいことではない

「グリーン経営認証」による「エコドライブ」の実践効果は、当初の2年間の燃費が認証前との比較で15～20％向上するなど、大きな効果をもたらしました。それまでも「やさしい運転」に努めていましたが、「エコドライブ10のすすめ」などの活動マニュアルが非常に有効でした。しかし、長年続けていると改善率は小さくなり、3回更新した頃からは高止まりの傾向が続いています。現在の平均燃費は大型車で約3km/ℓ、中型車で約4.5km/ℓ、小型車で約6km/ℓですが、燃費についてはこれ以上無理をしなくても良いと思っています。当社は現在、必要以上のアイドリングストップは推奨していません。これを強力に推奨することで数値はもう少し改善する可能性もありますが、お客様や乗務員の熱中症リスクを考慮すると、無理して行うべきではありません。燃費改善に替わる新たな取組がないものか、エコモ財団などから情報を収集しているところです。

「グリーン経営認証」の一番の成果は、「エコドライブ」による運転の基礎が学べたことです。決して難しいことではないので、「グリーン経営」に取り組んでいない同業者にもぜひ知ってほしいと思います。茨城県はバス事業者が比較的多い地域ですが、「グリーン経営認証」を取得している事業者は決して多くありません。その理由のひとつに「取組のハードルが高すぎる」と思われているのではないかと考えています。実際、同業者からそのような声を聞くこともあります。しかし、実践してみると比較的容易に取り組めることがわかります。環境分野の認証制度ですが、安全運転に結び付きますので、「人を輸送する」というバス事業の特性からも「グリーン経営」を安全運転活動に組み込む同業者が増えてほしいと願っており、交通エコモ財団にも「難しい認証ではない」ことを周知してほしいと思っています。

大座畑社長